

空と緑 《新》呼吸する

'94



# たまがわ 12

No. 339

協賛

東邦銀行

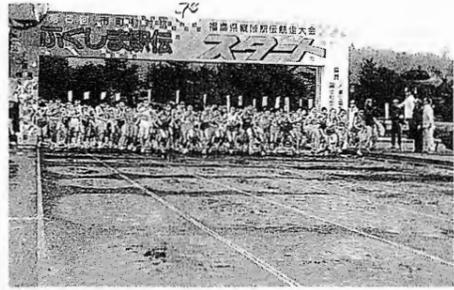


## ゴールイン!!

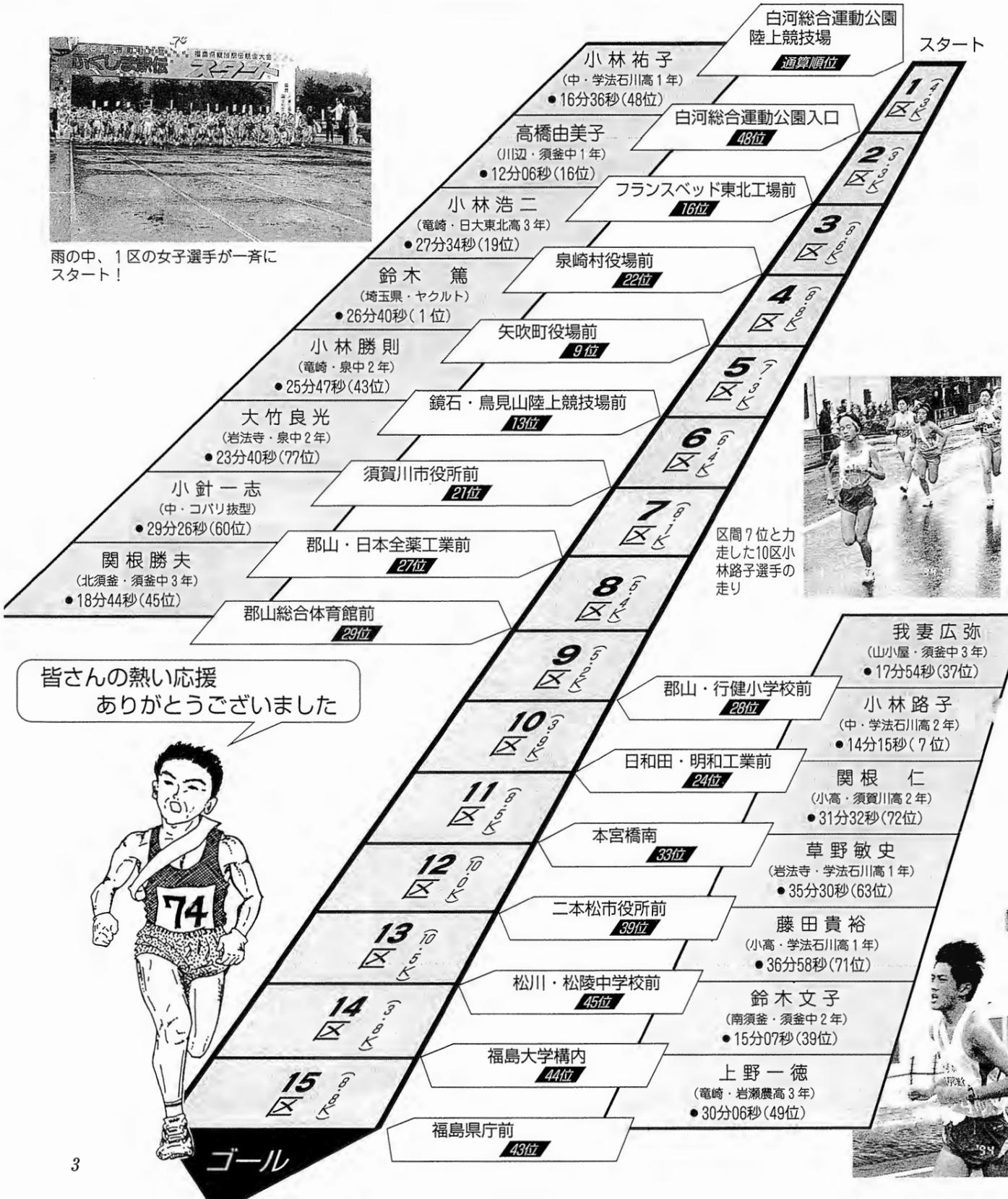
第6回ふくしま駅伝でゴールインする玉川村チームのアンカー、上野一徳選手(葛崎)

# 第6回 ふくしま駅伝

## 第6回市町村対抗福島県縦断駅伝競争大会



雨の中、1区的女子選手が一斉にスタート!



皆さんの熱い応援ありがとうございました



区間7位と力走した10区小林路子選手の走り



レース終了後、玉川村チーム選手団集合

玉川村チームは、総合タイム6時間1分55秒で、昨年より約5分短縮し過去最高のタイムでした。順位は、総合で第43位と昨年を15位上回り、村の部でも3位アップの第10位と大幅に順



沿道ファンの声援を受けながら走る14区鈴木文子選手



解団式であいさつする橋本監督



位を上げ、過去最高の成績でした。また、4区を走った鈴木篤選手(ヤクルト本社。竜崎出身)は、区間タイム26分40秒で区間賞を獲得。鈴木選手は昨年と同じ4区で区間賞をとっており、区間2連覇を達成しました。

を手渡した後、橋本憲一監督が「選手の持っている力がこれほど素晴らしいものだとは思わなかった。選手の皆さんにありがとうと言いたい」とあいさつ。4回目の出場となった玉川村チームは、一昨年60位、昨年は58位、そして今年は43位と、一気に順位を伸ばした選手たち。チームワークの良さ、各選手が自ら各種大会へ遠征するなど、努力の積み重ねと、泉婦人会

の方々が「ねばりつよく勝て」と願いを込め、モチとカツを使っ

総合順位24位で、小林路子選手から関根仁選手へリレー

FUKUSHIMA EKIDEN

ふるさとの熱い声援背に、

総合

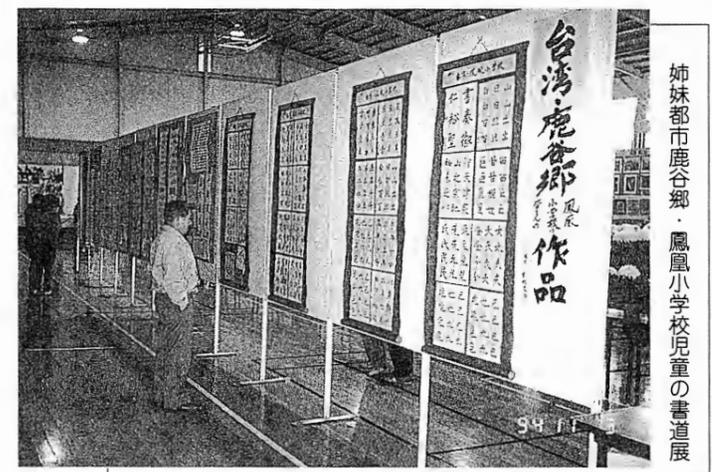
走りぬけた102キロ

大躍進

# 村民文化祭



日本の心、茶道。「秋の茶会」(11月3日)



姉妹都市鹿谷郷・鳳凰小学校児童の書道展



陶器展。松宮輝明先生作



絵画。川田正裕「小作品展」



「機能訓練あけぼの会」の作品を展示、即売。

平成6年度の玉川村民文化祭が10月22日の老人作品展と山野草展を皮切りに、11月6日まで村民体育館と就業改善センターで開かれ、村内の各種文化団子どもからお年寄りまで大勢の住民がごつめかけ、各展示会に出展された力作の数々に熱心に見入っていました。各展示のおもな入賞は別表のとおりです。



商工会コーナー。特産品と作品展

人が集い文化をはぐくむ



「菊花展」会場いっぱい咲いた見事な菊の大輪



生花愛好者による「生花展」



玉水書道会による「書道展」



「税に関する習字展」



「愛媛県玉川町」のPRコーナー



姉妹都市・鹿谷郷内の小学校児童の絵画



「私のアイデア貯金箱」コンクール出品作品

## ●老人作品展 (10月22~23日)

- ◆日本赤十字社福島県支部長賞  
・須釜シメ子 (岩法寺)
- ◆福島県老人クラブ連合会長賞  
・矢部 元重 (川辺)
- ◆石川地方老人クラブ連合会長賞  
・高林 ツル (中)  
・猪原 只光 (南須釜)
- ◆玉川村老人クラブ連合会長賞  
・車田 トク (小高)  
・山崎 春男 (竜崎)

## ●郵政事業展 (11月3日) アイデア貯金箱コンクール

- ◆優秀賞
- ・有賀 朝美 (須釜小6年)
- ・小山田 智 (〃6年)
- ・斉藤 俊 (〃5年)
- ・小林 和央 (玉一小5年)
- ・増子 美加 (須釜小4年)
- ・草野真祐美 (玉一小3年)
- ・鈴木 啓章 (川辺小3年)
- ・塩田 淳美 (須釜小1年)

## ●第5回玉川山野草展 (10月22日~23日)

- ◆玉川村長賞  
・奥野 四郎 (中)
- ◆会長賞  
・溝井 良仲 (小高)
- ◆公民館長賞  
・石井 実 (小高)
- ◆福島民友新聞社賞  
・車田 常代 (小高)
- ◆JAあぶくま石川泉支店長賞  
・大野 勝良 (南須釜)
- ◆JAあぶくま石川須釜支店長賞  
・岩谷 繁 (中)
- ◆特別賞  
・奥野 四郎 (中)

## ●税に関する習字展 (11月2日~4日)

- ◆須賀川税務署長賞 (小学校の部)
- ・矢部 秀美 (川辺小1年)
- ・近内沙弥香 (須釜小2年)
- ・倉鏡 尚 (玉一小3年)
- ・小針 邦光 (玉一小4年)
- ・大竹 裕 (玉一小5年)
- ・眞田さやか (玉一小6年)
- ◆玉川村長賞 (小学校の部)
- ・大竹 貴紀 (玉一小1年)
- ・鈴木 淳子 (川辺小2年)
- ・溝井 宏幸 (須釜小3年)
- ・鈴木 裕也 (川辺小4年)
- ・塩田ちひろ (須釜小5年)
- ・小針千恵子 (川辺小6年)
- ◆須賀川税務署長賞 (中学校の部)
- ・岩谷 研吾 (泉中1年)
- ・瀬谷麻理子 (須釜中2年)
- ・石森 智子 (須釜中3年)
- ◆玉川村長賞 (中学校の部)
- ・草野 涼子 (須釜中1年)
- ・車田由希恵 (泉中2年)
- ・仁井田智恵 (泉中3年)

# 祖父といっしょに 私も農作物づくりに 挑戦していきたい。

きょうも私の座席の前のA君は欠席です。A君は幼いころから小児喘息で、発作を起こし休みがちです。昨年は、入院先から通学していたこともありました。

その彼は、学校へ来るたびに、いつも「いまだに進んだの？」と授業の進み具合を心配そうに尋ねるのです。そして、休み時間ともなると、ノートを写すのに必死です。級友たちが一目散にサッカーに駆け出す中で、彼の背中は寂しそかったです。そんな彼の姿を見ると、(A君を手伝ってやらなくちゃ。)という思いが突き上げてくるのです。しかし、思うだけで実行に移せない私でした。彼と同じ班にいないから、彼のあせりを知りながら、彼をバックアップしなければという思いだけに終わってしまつたのです。そんなある日、先生が教室に入ってくるなり、「全員起立。廊下へ出てから、目を閉じて自分の座席までもどってこらな」と言われました。先生の突然の言葉に学級は大混乱。ぶつかり合いが手を広げ、周囲の者に目を向け、一歩一歩床を滑るようになってゆっくりに進む。恐怖心がおそってくる。教室からさわめきが消え、緊張感が漂つた。いつもなら十秒もかからないで

「ウーン、この花の香りがたまらないな」と祖父は田んぼの空気を何度も深く吸いこみ、そう言うのです。でも、私には香りがしません。花が見えるだけです。不思議です。祖父だけどうして花の香りを感じるのでしょうか。

稲の花って知っていますか。実をつけるものは必ず花を咲かせるのですから、当然かもしれないが、あまり知られていないような気がするのです。私は、稲の小さな白い花が大好きです。そのきれいな姿と、この花を見る時の祖父の笑顔が楽しみだからです。

ところが、昨年の祖父には、この花を見たときの笑顔がありませんでした。「花が咲かない」と暗い顔でした。案の定、冷害で米の取れ高が、いつもの年の半分ほどでした。あんなにがっかりしたようすは今までに見たことがありませんでした。今年も夏らしい夏をむかえ、「今年も順調だな」とそう思っていたら大変。

「去年は冷害、今年は水不足。稲は大丈夫かな」と、また祖父の表情がくもりまします。米作りも野菜作りも、自然が相手です。人間の力で、自然に勝つことは絶対無理です。祖父の最大の悩

みは、自然との戦いにあるのです。

先日、祖父のゲートボールについてゆきました。山の方が少し暗くなってくると、祖父はその雲を見て「こっちへ来い。雨を降らせてくれ」と、言うことをきかないわがまま坊主に、お願いするような感じで言うのです。祖父の頭は、どこへ行っても、水不足のごとでいつはいいのです。そしてこの日も、雨は一滴も降りませんでした。やがて夏休みに入ったある日、部



佐藤由樹 (藤生)  
泉中学校・1年

## 『祖父と 共に』

平成6年度「家庭の日」  
作文コンクール  
県大会・最優秀賞作品

活動を終えた私が、汗ビシヨリになり、クタクタになって帰宅し「ただいま」と言うといつもは「はい、お帰り」という元気な祖父の声が返ってくるのに、物音一つしないのです。車はあるし、お昼にはいつも帰ってきているはずなのにどうしたのだらうと、不安になってきました。大急ぎで茶の間に行ってみても、祖父はいません。あたりをキョロキョロ見回すと、縁

側になんかおんをまへらわりにして、横になっている祖父の姿が目に入りました。

顔は青白く、具合が悪そうです。「だいじょうぶ？」ときくと祖父は「雨が降らないので、あんまり野菜たちがかわいそうになつてしまつてな。畑に水をやっていただんだよ。そしたら気が悪くなつてしまつてな。大丈夫なこのじいちゃんだって、こんなになるんだから野菜たちは辛いぶんつらいたらう。じいちゃんは休んでいれば治るが、

祖父が水かけして具合が悪くなったことを、みんなに話すと父は「じいちゃんのやさしさはそこにあるんだな。毎日こんなに暑いと、自分のことしか考えないのに、野菜の身になって考えるじいちゃんだ。人間だけでなく、自分が育てるものに対しての情熱はすごい」と言うので、母もうなずいています。

私はこのとき、稲の花の香りをかいたときの、祖父の笑顔を思い出しました。そして、どうして祖父には花の香りがするのかがわかったような気がしました。それは、稲を子どものように手をかけ、世話をしてくる人だけに、おこるものだからです。毎日、毎日、成長を見つめているからこそ、わずかな変化、かすかな香りが感じられるのです。

「あの稲の花の香りがわかるようになった。どんな香りなんだらう。早く知りたい。私は、強そう思ったのです。」

そして、私たちの健康を考え、生活を支えてくれる米や野菜。その大切なものを作ることに、祖父といっしょに私も挑戦していきたい、という将来の夢がふくらんできたのです。

「おじいちゃん、どうかよろしく



矢部崇子 (川辺)  
泉中学校・2年

## 『共に生きる』

平成6年度「少年の主張」  
県大会・優秀賞作品

座れるのに、閉ざされた感覚の中で、私は三分にも匹敵するほどの長い三分間を経験したのです。全員が席につくと、「じゃあ、目を閉じたまま走れと言われたら、どお？」この先生の問いに「転びます」「無理だよ」「危険だ」「怖くてダメ」と即座にみんなは「ノー」の答え。すると先生は、教室のテレビにひとつの映像を映し出しました。

一人の盲目の少年が、級友たちと河原を走っている姿です。の目になっているのです。初めてトラックを走りきつた少年の満足げな笑顔。級友の手が少年の肩にかけられます。障害を持ちながら挑戦する少年の強い心と少年に対し、「ごく普通の友人としてさりげなく目」になろうとする思いやりを持って接している仲間たちの姿に、誰もが画面にくぎづけでした。少年の口から「さまざま問題にぶつかるたび、友たちが助けてくれました」「この言葉が寄せられた

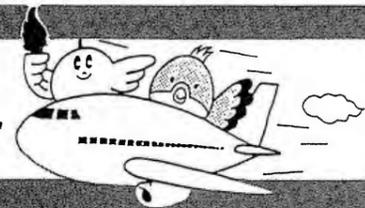
きことは、他人の苦しみ、悩み、辛さを自分のこととして感じられる心を持つことと、さらに、それに対し、自分たちの力でできることを、さりげなく実践していくことなのです。何も難しいことではないのです。こうした支え合いがあつてこそ、共に生きていく喜びを知り、信頼が生まれてくるのです。やっと他人の心の痛みを感じ、行動に踏み切れた私たちは、車椅子購入のためのタブ集めや、養護施設との交流活動にクラス一丸となって取り組んでいます。共に生きる者として。

運動会で一度も走つたことがないという盲目の少年にとって最大の難関はカーブです。目の見える私たちにとっても難しいコーナーワークです。作戦を練る級友たち。そして、いよいよ運動会当日、友の声をたよりに懸命にコーナーを走る姿がクローズアップされました。「良司、良司、良司……」少年の名を呼び、リードしながら前を走る友。その声こそ、少年の「目」なのです。級友たちが完全に彼

とき、私は鋭い刃物でいきなり刺されたような痛みが体中に走りました。それは行動力のない私自身に対する痛みでもありません。そつた、すくA君に……今、私たちの班の中で、彼の休んだ日の授業のノートを科目ごとにとりあっています。昼休みはノートを見ながら彼に教えあっています。

「共に生きよう」「これこそ、集団生活の基本といえるでしょう。私たちが人間としてなすべ

# 負けないで どんな時も。 人は共に支えあって 生きていこう。

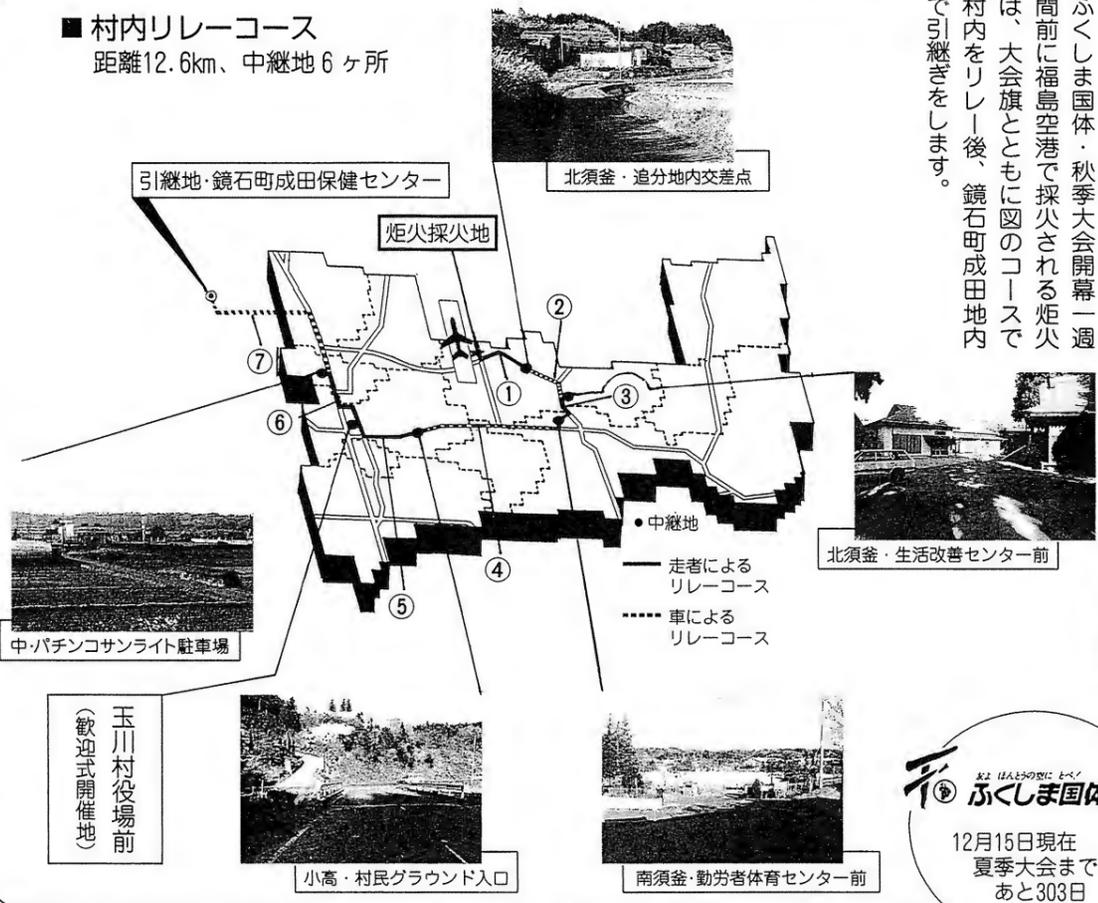


空と緑、“新”呼吸する  
たまかわ

シリーズ国体⑥

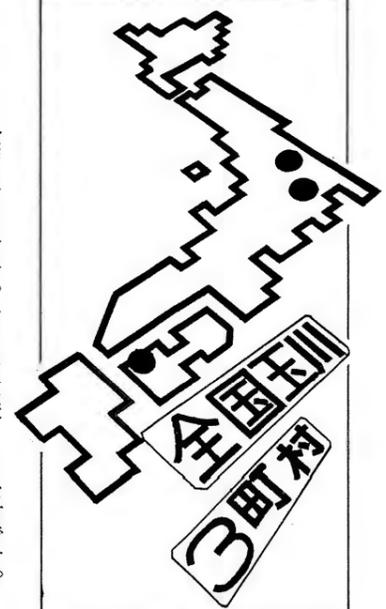
炬火採火地 玉川村

■ 村内リレーコース  
距離12.6km、中継地6ヶ所



ふくしま国体の炬火リレーコース決まる

ふくしま国体・秋季大会開幕一週  
間前に福島空港で採火される炬火  
は、大会旗とともに図のコースで  
村内をリレー後、鏡石町成田地内  
で引継ぎをします。



埼玉県玉川村



柏侯昌平玉川村長

中部を西から東へ流れる雀川、この雀川が合流する都幾川、そして村北部に嵐山町との境になる柳川が流れ、この3本の河川沿いに集落と農地が展開しています。東部を除く三方を、秩父盆地東側から連なる外秩父山地が武蔵野と接する比企丘陵地帯の小高い山々に囲まれ、村の面積の約3分の1が山林となっています。総面積は14・49km<sup>2</sup>と小

さいな村です。人口、世帯数は10月現在でそれぞれ5,720人、1,592世帯となっていて、人口、世帯数とも昭和47年からは毎年増加の一途をたどっています。人口密度は1km<sup>2</sup>当たり39人で、我が村の2・4倍という高さです。村は明治22年、市町村制施行とともに誕生。それ以後の合併はなく、今年で村政施行105周年目を迎えました。最近では、都心から55km圏内ということで、住宅地の造成が進み急激に都市化の波が押し寄せています。村の



役場からみた村のようす



玉川村役場庁舎



完成間近な玉川村文化センターの外観



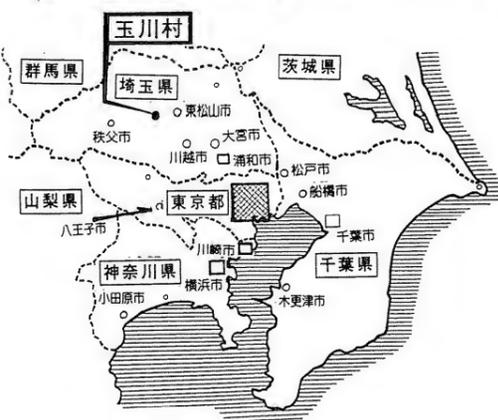
雀川砂防ダム。遠方は東松山市方面

産業も、今や専業農家はほとんどなく、農林業などの第一次産業が年々減っています。反対に製造業やサービス業などの第二次、三次産業は年々増加し中心となつていきます。工業が盛んで、昭和40年ごろから積極的に工場誘致が行われ、日野原地区工業団地には20数社が集中。従業員200人以上の工場も10社以上あります。工業出荷額は350億円にものぼります。そして村には県立玉川工業高校があります。この高校は県立小川高校の玉川分校としてスタート。その後分校が

廃止され組合立玉川高校となり、昭和37年に現在の県立工業高校になりました。村の西部には昭和63年に完成した雀川砂防ダムがあります。村の最高峰、雷電山(418m)から流れ出る雀川の土砂災害を防ぐために建設されたもので、高さ17m、堤長110mの重力式ダムです。平成3年には、そのダム公園が完成しました。ダム周辺の豊かな山林と雀川の清流が見事に調和した360アールの都市公園です。村のほぼ中央の丘陵地にゴルフ場、玉川スプリングスカントリー

役場の隣では、7年1月の完成をめざして玉川村文化センター「アスピアたまがわ」の建設が急ピッチで進められています。客席数304のホールと図書館(3万5千冊)をメインとした複合施設で、総工費16億2千万円。豪華さだけでなく、機能面でもすばらしい建物です。「商工的農産村」から「豊かな自然に恵まれた住み良い都市」への脱皮をめざす埼玉県玉川村は「スポーツ宣言」の村でもあり、比企地方や市町村とも連携したすばらしいスポーツの振興を展開。健康的で、豊かな教育・文化に囲まれた快適で安心の小さな「理想郷」です。

リー倶楽部があります。今年7月にオープンした18ホールの起伏に富んだゴルフ場で、農薬を使わないコース管理を進めているそうです。



食改だより

「ヤーコン」食べて活発に意見を交換!

11月21日、村保健センターで『よつばの会』と村議会との交流会が開かれ、会員や議員の方々や車田村長らが参加しました。

珍しい「ヤーコン」(ミネラルが豊富な南アメリカ原産の根菜。味はレンコンと大根の中間のようで、サクッとした歯ざわりが特徴。きんぴら、やおからに入れるとおいしいそうです)の酢の物など会員らが作った料理での食事会の後、双里不二枝会長が座長となり懇談会が行われました。

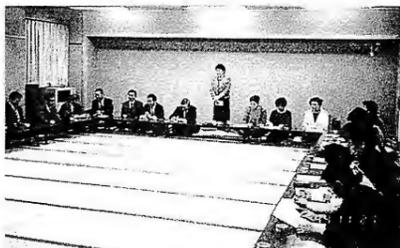
懇談では、図書館の充実や村内の商工業の活性化、子どもに優しい生活環境の整備など多くの意見や要望が出され、



大竹トミエさん(岩法寺)が丹精こめて作った「ヤーコン」

「よつばの会」が議会議員らと交流

特に「村は一つ。東部、西部という意識はすてて、村のために働いてもらいたい」との要望に対しては、議員として『よつばの会』会員がそれぞれの立場でがんばっていかう、という宣言がなされるなど、有意義な交流となりました。



# たまかわトピックス

—みなさんからの話題をおまちしています—  
役場企画調整課  
広報係まで

## 福島県統計大会

11/2

白河市民会館で開催された第44回福島県統計大会の席上、統計功労者の表彰が行われました。

本村からは、8年間統計調査員として協力をいただいている西川美枝子さん(小高)が、県統計協会会長(会長・佐藤栄佐久知事)表彰を受けられました。

## 西川さんが県統計協会会長表彰



## 第3回よい歯のコンクール

10/28

平成6年度第3回目の「よい歯のコンクール」表彰式が村保健センターで行われ、3歳児健康診査の「歯科」で虫歯のなかった子ども、4名が表彰されました。  
よい歯をしているのは、次の子どもたちです。( )は保護者名と地区名

## 「ぼくらは良い子、歯も良い子」



小林 寛 享くん(節男・岩法寺)



大竹由利絵ちゃん(勝重・川辺)



小林 成 美ちゃん(吉成・竜崎)



矢吹 瞳ちゃん(武美・小高)



訓練終了式で参加者全員整列

## 「緊急着陸に失敗！航空機が炎上!!」

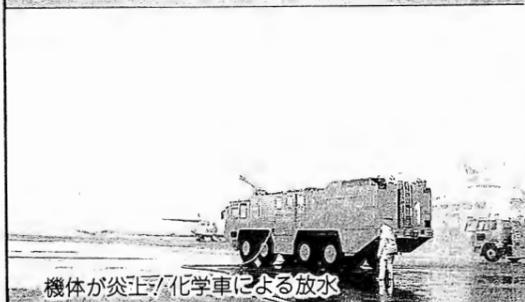
11/14

## 福島空港で 消防救難訓練

福島空港で、航空機事故に備えての消防救難訓練が行われ、県警本部、須賀川および郡山、白河の広域消防本部、地元消防団や郡山、須賀川、石川、白河の各医師会の医師など約300人が参加、放水の水しぶきのなか、本番さながらの緊迫した訓練を展開していました。



事故機内から負傷者を救出する消防本隊



機体が炎上/化学車による放水



機内から救出された負傷者に手当でをほどこす

須釜中学校(関根照夫校長)と須釜地区防犯協会(境田孝意会長)主催の「第16回非行防止校内マラソン大会」が須釜中学校で開かれ、全校生徒139人が参加しました。

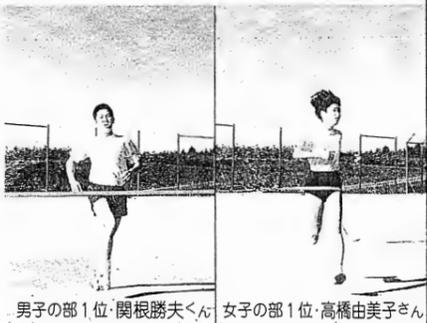
この大会は、長距離を走りぬくことで、たくましい体と我慢強い心を養うことを目的とし、石川警察署などが後援しています。生徒たちは、晴天に恵まれた小春日の中をゴールに向かって力走し、健脚を競いました。個人3位までの入賞者は次のとおりです。

### \*女子の部(2・7 km)

- 第1位 高橋由美子(1年)
  - 第2位 鈴木 文子(2年)
  - 第3位 有賀 利絵(2年)
- ### \*男子の部(4・2 km)
- 第1位 関根 勝夫(3年)
  - 第2位 我妻 広弥(3年)
  - 第3位 石森 猛(2年)

## 走れ、走れ！ ゴールに向かって

11/9 須釜中学校で  
非行防止マラソン



男子の部1位・関根勝夫くん 女子の部1位・高橋由美子さん

## 元気に歩いた 「雨の玉川路」

### 歩けあるけ健康家族大会

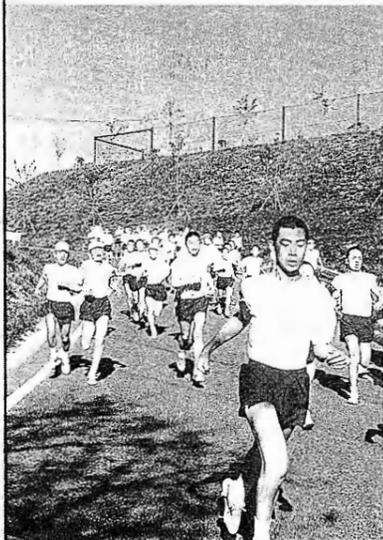
11/3

第4回玉川村歩ける健康家族大会が、役場前から空港公園までの往復9キロのコースで行われました。  
この日はあいにくの雨模様でしたが、親子連れなど約200人が参加。途中4カ所にもうけられたチェックポイントでクイズを楽しんだりしながら元気に歩

き、ゴール後は「よつばの会」の方たちが作った、熱い豚汁に舌鼓を打っていました。  
この大会は、村と村健康づくり推進協議会が主催し、家族そろって歩き古里の良さを知らせてもらおうと、毎年開催しています。



支所前の坂道を駆けおりの男子の部



## 「小高・四辻両分団の皆さん ご苦労様でした！」 消防操法大会の祝賀会と報告会

村消防団の消防操法県大会ダブル出場祝賀会と全国大会出場の報告会が、マージュラス末広(中)で盛大に開かれ、出場団員らの活躍をたたえました。

村消防団は今年の石川地方消防操法大会で小高分団(自動車ポンプの部)四辻分団(小型ポンプの部)がともに優勝し、県大会にダブル出場。県大会では四辻分団が見事優勝し金ばれんを獲得。県代表として全国大会に本村から初めて出場しました。

村と村消防団が主催した同会には、関係者ら約200人が出席。大竹勝義団長が経過を報告しながら「この快挙で村消防団の名を一気に高めてくれた」とたたえ、車田村長が「村消防団が組織され40年を迎える記念の年に消防史に輝く1ページを残してくれた」とあいさつ。

来賓の祝辞の後、関根勝男小高分団長、塩田真一四辻分団長がお礼のことばをのべました。続いて祝宴に入り、出席者らは長い間の団員たちの健闘にねぎらいや祝福のことばを送っていました。



祝 小高四辻分団県消防操法大会ダブル出場祝賀会  
並びに四辻分団全国消防操法大会出場報告会

# 12月の健康ごよみ

- 20日(火) 成人病予防教室.....(須公) 午前9時30分~11時30分
- 21日(水) 母親教室.....(保) 午前9時15分~9時30分
- 22日(木) 機能訓練.....(保) 午後1時30分~

(保) : 保健センター  
(須公) : 須釜公民館  
(受付) : 受付

## 寄付ありがとうございます

下記の方々から社会福祉活動資金として寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

- 記
- 川辺の磯目幸三郎さんから 1万円
  - 小高の湯澤美代子さんから 2万円
  - 岩法寺の草野亀雄さんから 5万円
  - 南須釜の大越 専さんから 3万円
  - の国井初之助さんから 1万円
  - 吉の矢部茂政さんから 2万円
  - 東京玉川会からふるさと福祉事業として 1千円
- (村社会福祉協議会)

## 玉川村短歌会佳作抄

- 村公民館
- \* 病む老夫の頑丈なる手を握りしむ  
この手力に生きてきし日日
  - \* 老夫見舞うも日課となりぬわが膝に  
曾孫の乗れば嫁運転す
  - \* 口論をせし日もありきすこやかな  
夫との日を一人思いおり
- 小針登里・作

# 12月

年末年始も  
食べ物に注意!

きれいな冬空  
とりもどそう

## 食品・添加物等の年末一斉取締り月間

## 伝言板

### 新春恒例 村民囲碁・将棋大会

参加者募集!

村民囲碁・将棋大会を次により開催いたします。新春を囲碁と将棋で楽しみましょう!

- 記
- ▶日時: 平成7年1月29日(日)
  - ▶場所: 村就業改善センター
  - ▶対象: 村内に居住または勤務する人



詳しくは村公民館まで!

## 今月の納税

固定資産税 3期分  
国民健康保険税 3期分  
国民年金 12月分  
国民年金 6月分  
(納期限は12月26日(月)です。お忘れなく納めましょう。)

## 村のようす

- (6年11月1日現在)
- 1,746戸(+5)
  - 7,679人(+3)
  - 3,785人(±0)
  - 3,894人(+3)

## お誕生おめでとう ございます

(11月届出分)

地区	出生児氏名	保護者名
川辺	野崎慶太郎	忠志
小高	遠藤豪人	昇一
中	鈴木稔子	正勅
の	駒木根葉	悟
竜崎	小林英紀	吉弘
の	小林愛美	友晴
の	神田理歩	次男
の	仁井田ひかり	健
南須釜	黒田悠典	典男
の	大和田愛	宏

## おくやみ申し上げます

(11月届出分)

地区	死亡者氏名	年齢	世帯主名
川辺	磯目ムメ	87	幸三郎
小高	湯澤コマ	76	美代子
岩法寺	草野タカラ	85	亀雄
南須釜	大越つや子	43	専
の	大越トシヨ	71	の
の	國井清光	74	初之助
吉	矢部茂樹	78	茂政



11月3日、歩けあるけ健康家族大会より



くらしの情報

## 平成7年度泉保育所 入所希望者を募集

次により平成7年度に泉保育所へ入所希望する幼児を募集します。

- ◆対象児と募集定員  
満1歳以上から小学校就学前の幼児、80人。
- ◆保育時間  
午前8時30分から午後5時まで。
- ◆入所基準  
幼児の保護者、特に母親が就労、病気などの理由で保育することができず、更に同居している人も保育にあたることのできない場合。
- ◆保育料  
所得税などの課税額により決められます。
- ◆申請期間  
平成7年1月5日(休)から1月20日(金)まで。
- ◆申請場所  
玉川村役場住民課
- ◆持参品  
就労証明、印かん、保険証
- ◆注意事項  
引き続き入所を希望する場合も申請が必要です。  
詳しくは、役場住民課福祉係 ☎57-3101 内線27番まで。

## いずみ すがま 幼稚園児を募集

平成7年度に入園する玉川村いずみ、すがま両幼稚園の園児を募集します。

- ◆対象児と募集定員  
【いずみ幼稚園】  
玉川村内に住んでいる平成元年4月2日から平成2年4月1日までに生まれた幼児、120人  
【すがま幼稚園】  
玉川村内に住んでいる平成元年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた幼児、100人。
- ◆申し込み期間  
平成7年1月10日(火)から1月24日(火)まで
- ◆申込み方法  
幼稚園にある入園願書に必要事項を記入して、各幼稚園に申し込んでください。
- ◆その他  
印かんが必要ですから必ず持参してください。  
※現在、すがま幼稚園に入園している園児(4歳児)が引き続き入園する場合は、申し込みの必要はありません。  
詳しくは、村教育委員会 ☎57-3101 内線63番まで

ひとりで悩まず相談を!  
『いじめ110番』  
☎(0245)21-4142

いじめ110番は、いじめで悩んでいる少年のための電話相談です。言葉や暴力などによるいじめで悩んでいる方、子供や友達がいじめられているのを知って悩んでいる方、勇気を出して電話してください。相談者の秘密は守ります。  
◆相談時間 AM8:30~PM.5:00  
土、日、祝祭日はお休みです。  
いじめ相談は、石川署生活安全係でも取り扱っています。(☎26-2191)

## 犬の放し飼いやめましょう!!

犬に襲われたり、農作物を荒らされるという、犬による被害が発生しています。愛犬はルールとマナーを守って飼育し、人に迷惑な放し飼いは絶対にやめましょう。また、狂犬病予防注射と登録を忘れずに受けましょう。

## ごみは分けて出しましょう!

ごみは『燃えるごみや生ごみ』と空き缶などの『燃えないごみ』に分けて収集を行っています。必ず、それぞれに分けて指定の場所に出しましょう。

## 1月31日まで 法定調書の提出は

給料、報酬、不動産の使用料などの支払者は、その支払先ごとに支払金額や、源泉徴収税額などを記入した法定調書を税務署に提出することになっていきます。  
今年の提出期限は、平成7年1月31日(火)です。  
詳しくは、最寄りの税務署におたずねください。

誕生月になったら、現況届の提出を忘れずに!  
国民年金や厚生年金保険等の年金を引き続いて1年以上受給している方は、毎年誕生月の初めに現況届の用紙が直接送られてきますので、市町村長の証明を受けて、誕生月の末日までに社会保険業務センターに提出してください。  
現況届は、引き続き年金を受け取る権利があるかどうかを確認するために、毎年1回誕生月に提出していただくもので、提出されないときは、年金の支払いを一時差し止めることとなります。誕生月には忘れずに現況届を提出しましょう。



須釜村国民学校 神饌田 御田植

「学童も食糧増産」

この「須釜村国民学校神饌田御田植」と書かれた写真は、南須釜の塩沢正勝さん(51歳)から提供されたもので、場所は南須釜の奥平で、当時、須釜村の中心地だったところでした。

「田植えをしているこの学校田は、私の家の田だったんですが、ここは今、私の家やナカヤ商店になってます。当時はここ(写真左側の家屋)が私の家で郵便局にもなっていましたと、局舎内で語る塩沢さん。

ちょうど、その場に居合せた鈴木四郎さん(68歳、青井沢)に、写真の内容を聞いてみました。「この須釜尋常高等小学校(写真後方の建物)が国民学校になったのが昭和16年で、終戦後の22年までであった。写真の生徒らは、大体今65ぐらいの人らでネエかな。田植えやる前に、玉ぐしをささげ豊作を祈願した。あのころの学校は、桃組だの、梅組だの生まれた月ごとに組が分れてた」と語る鈴木さん。

当時、戦争が激しくなるにつれ、食糧をはじめあらゆる物が不足し、須釜国民学校でも食糧増産教育が行われました。ちなみに当時植えた品種は「愛国」が多かったそうです。

思い出のアルバム ⑩

たまかわの皆さん お元気ですか

—東京玉川会員だより—

「総会は温故知新」

東京都江戸川区  
増子 薫さん(南須釜出身)



後列、右端が増子さん。左端は奥さん(昨年、同級生の忘年会で)

今年もまた師走の声を聞き、なにかとあわただしいこの頃ですが、皆さんお元気ですか。

暮れになるといつも思い出すのは、今から45年前の12月12日に上京したことです。今と違いう上野まで6時間もかかった時代です。

私は東京玉川会総会の際に、司会役を務めさせていただいておりますので、出席者の方々は顔見知りかと思いますが、都合により出席できない方に、総会の雰囲気をお知らせしたいと思います。

出席者の年令層は幅広いのですが、故郷の話を始めると年令の差はなくなり、昔の話に花が咲いて、最近の話題で実を結ぶ、といったムードに包

まれ、正に「温故知新」といった言葉がピッタリです。また、故郷玉川の山の姿が変わり、道が開けても、人情味の厚さが「お国なまり」に表れます。

東京玉川会も来年は6年目になりますので、これを機になにか新しい企画を考えたいと思います。ぜひ御協力の程お願いいたします。

私も来年は、ふるさとの自然と昔の名残を求めに帰郷したいと思っております。

今年も残り少なくなりまして、玉川村の皆さんの御健康と、玉川会の発展を心からお祈りいたします。